小さな親切 秋号

CONTENTS
Autumn 2020 ● No.520

② コロナに負けるな
こんな時だからこそ〝できる親切〟を Part2

⑤ 第36回「小さな親切」はがきキャンペーン
入賞作品／入賞・入選者名簿

⑧ withコロナ時代 「学校」と「心の教育」を考える
馬場喜久雄／宮島盛隆

⑩ 新しい生活様式
・「カタカナ用語」解説
・ あっ、生活が変わった

⑫ おうち時間でおもちゃ作りを楽しもう

⑬ コラム「これってどうなの?」／のんちゃんのおすすめ紹介

⑭ Information & HIROBA

表紙写真
❶：紙皿で作った鳥のモビール（12頁参照）
❷：親切運動の花〝コスモス〟の季節（千葉県）
❸：保育園へマスクを寄贈（青森西高校・3頁）
❹：ロボットが働くレストラン（東京都・11頁）
❺：高校生のお姉さんありがとう（青森県・3頁）
❻：手作りのアマビエ護符（14頁参照）

「小さな親切」誌は、季刊発行
春号・5月、夏号・8月、秋号・11月、新春号・1月の予定です

2020年11月1日発行　通巻520号
編集・発行人　鈴木恒夫
発 行 所　公益社団法人「小さな親切」運動本部
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-20-4
TEL.03-3263-2866　FAX.03-3263-3838
https://www.kindness.jp/
印 刷 所　広研印刷株式会社

© 無断転載禁止　落丁、乱丁はおとりかえいたします。

デザイン・DTP　有限会社リトルフット
イ ラ ス ト　P13：安彦麻理絵

恒さんが行く!

〝よこはま・叩き上げ〟

代表　鈴木恒夫

「小さな親切」運動は、あらゆる国民層の方々のご参加で半世紀以上も続けられている団体で、公益法人ということもあるため、代表を拝命している私も、この欄での一文をはじめ、いっさいの政治活動とは不偏不党、中立の立場を貫いている。たった一度だけ、河野洋平・太郎親子の生体肝移植について書いたことがあったが、それは私が政界入りしたきっかけが洋平氏の新党運動であり、個人的な河野家とのつながりがあったからだ。

その私が今回、第99代内閣総理大臣に就任した菅義偉（すがよしひで）さんを取り上げさせていただく。私の長い政治歴の中で、新首相とのつながりは特別のものがあり、万感を込めて筆を取らせてもらうことにした。

〝叩き上げ〟。新首相の政界での足跡はこの言葉通りだ。秋田県の農家に生まれ、上京して法政大を卒業後、27才で小此木（おこのぎ）彦三郎衆院議員の秘書となる。当時の衆議院はまだ中選挙区制で、小此木議員の選挙区は横浜のど真ん中「中・西・神奈川・鶴見・港北」の各行政区。私は港北区の農家の三男坊で、父親をはじめ一族は区選出の市会・県会の議員を通じ小此木議員の支持に徹していた。

菅秘書の評判は高く、当時毎日新聞の政治記者だった私の耳にもしばしば「すごい秘書がいる」との噂が入ってきていた。私は、昭和52年に当時の新党運動・新自由クラブの河野代表に請われて記者から政界へと入ったが、菅氏は昭和62年に横浜市会議員に当選している。新党が10年を経過して衰退傾向が強まり、衆議院の候補者も乏しくなったことから、私は小此木議員に対抗して衆議院に出馬。1回目の総選挙では惜敗したが、2度目の昭和61年の選挙で初当選を果たした。小此木議員と保守層を競い合った新党の私は、相手陣営からは「敵」であり、私の耳にはいろいろと「菅秘書」にからむ情報が入っていた。

ただ、菅氏と私には共通点があった。二人とも世襲どころか「地盤」などは全くなく、よく言われる「カバン（政治資金）」と「看板（売り物の肩書き）」の〝３バン〟はゼロ。私の地元の横浜市北部にはもともと国会議員は出ておらず、親戚や同窓生らの人脈もあって議席を得たが、私なりに言ってみれば「運と勘」の勝利。菅氏のゼロからの闘いが、平成８年の小選挙区制初の神奈川２区（西・南・港南各区）での初当選につながったことを思えば、そのパワーのもの凄さに、ただただ頭が下がる私だ。

そして、ついに８期当選の後、内閣総理大臣に。政界という世界は、ほんとうにすさまじい世界だし、行政改革やデジタル政策など、そして何よりも当面の新型コロナウイルス対策や景気回復、財政政策、さらには外交・安全保障・新時代教育・地球環境問題等々、課題は山積。たびたび口にされる「国民のための政治」の進行を、私は私なりに求め、そして、心の底から成果を祈りたい。